

私の願い

校長 武井 正明

人間を価値づける基準として、金持ちと貧乏、男性と女性。成績のいい悪い、この3つで教育をしていると、かなりの高確率で子どもは悪い方向に行きます。

私の母親は農家で、お金に苦労する親を見て育ちました。お金がないばかりに、成績優秀な長兄は上の学校を、泣く泣く断念して農家を継ぎました。だから、当時「勉強なさい。学校の先生はいいよ」「お父さんは高卒だから、お前は大学に行って安定した職業に…」と事あるごとに私に言っていたことが、私への愛情の裏返しだった、ということも今ではよく理解できます。

さらに「俺はバカだから」と母の言を、自分を卑下しながら肯定してしまう親父でした。それが私の人に対する価値基準を、一時期歪めていたことも事実です。

そんな父でしたが、昨年5月末に亡くなる直前まで、穴が開くほど隅々まで新聞を読み、日記を書き、庭を掃除し、家族の帰宅を笑顔で労って迎えてくれました。愚息にも感謝の念をもち、周囲を気遣い、迷惑を掛けないように、慎ましく生きていました。

私は父を尊敬しています。到底父にはかなわないと思っています。人間の価値とは、勉強ができるかどうかなどではなく、人と協調し、誰に対しても同じ態度で、感謝し謙虚に生きていく姿にこそある、と父の生きざまから教えてもらいました。

そして「西蒲の雄」吉田中を支えている先輩諸氏に共通しているのが、自分のことではなく、後進や未来の吉田を考えて、社会貢献しようという気概に溢れているところです。

未来の「心の故郷」吉田を支えていく君たちには、そういう尊敬すべき多くの先人に続く人材となってほしい。

教師が、親が、地域が本気になってこれらのことを願い、子どもたちに接していけば、子どもはしぜんと、自力で伸びていくものなのではないでしょうか。

そうでなければ、私たちの思いが、まだ足りないのだと思います。

私は吉田中学校に赴任して、新1年生が1年間という時の流れの中で、急成長してきた姿を2度、目の当たりにしました。特に入学当初はいろいろあります。でも、お家の方には、それも成長へのハードルだと思って、大きく構えていただきたいのです。

私は親御さんの宝物を、追い詰めるような真似は絶対にしません。お約束します。子どもたちが、それぞれの歩幅で成長することだけを、日々念じて学校運営に努めます。

子どもたちが生き生きと伸びていく姿を見るのが、私は今から楽しみでなりません。来週から新たに加わる196人の皆さん、心待ちにしています。